

浅羽町

地形概況

太田川下流と弁財天川との間の三角州性低地は水田地帯となる。遠州灘沿岸の同笠海岸は砂堆列と堤間湿地となっている。集落は自然堤防の微高地や砂堆上に立地する東北部に小笠山丘陵の末端がひろがり、段丘地形の浅羽台地もみられる。

地質概況

太田川・原野谷川ぞいの沖積地は泥層からなる低湿な三角州性平野で軟弱な地盤である。海岸ぞいの砂堆は砂層があつく、内陸にも古い砂堆列が残る。小笠山丘陵西縁は未固結の高位段丘礫層、浅羽台地は赤土まじりの低位段丘礫層が表層に堆積している。

気象概況

年平均気温は推定 15.4℃と県内でも高く、特に冬は暖かく真冬日がほとんどないが、季節風が連続して吹くことが多い。年平均降水量は推定 2,100mm と県内の平均よりやや少なく、4月から8月にかけて全降水量の約半分に達する。

災害事例 地震

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9
県中・西部の被害が大きかった。当地でも北地区で全壊 218 戸、半壊 88 戸、東地区で全壊 79 戸、半壊 37 戸、西地区で全壊 134 戸、半壊 141 戸、南地区で全壊 99 戸、半壊 32 戸に及んだ。また西浅羽では川筋の田には黒い砂が噴き出した。幸浦では川岸や道路がひび割れ、きれいな砂が噴き出したり、田や小学校校庭より硫黄のような匂いのする土砂が噴出した。各地の震度は、新堀・豊住・諸井・長溝・浅岡・富里・湊で7、大野・松原・浅羽・浅羽一色・幸浦で6～7、中新田・同笠・初越・湊で6である。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
全県下で被害が大きかったが、当地でも浅羽の内は家が残らず潰れ、所々水が噴き出したといわれている。震度は7であった。
- 1707年10月28日（宝永4年）宝永地震 M=8.4
全県下で被害が大きかった。長溝村では、地所は裂けて溝となり、井戸や溝からは大水が揺れ出した。西の流れ川はこのころ渇水のところ、にわかにな水が湧き出して川いっぱいに溢れた。石据えの家は皆同じように倒れ、倒れない家は村中で2～3戸しかなく、掘っ立て柱の家は傾いても倒れなかったという。震度は浅羽で6～7である。

災害事例 津波

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震津波
三重県沿岸には大きな被害を生じたが、当地では比較的軽微で、津波の高さは 2m 程度であった。
- 1707年10月28日（宝永4年）宝永地震津波

全県沿岸で被害があった。当地では高さ 3m 程度の津波が来襲した。

- 1498 年 9 月 20 日（明応 7 年）明応地震津波

全県沿岸を襲った津波である。当地では津波の高さは 5m と推定されている。

災害事例 高潮

- 1699 年 9 月 8 日（元禄 12 年）

大風潮害あり、浅羽のうち 84 石余の田畑皆無となるといわれている。